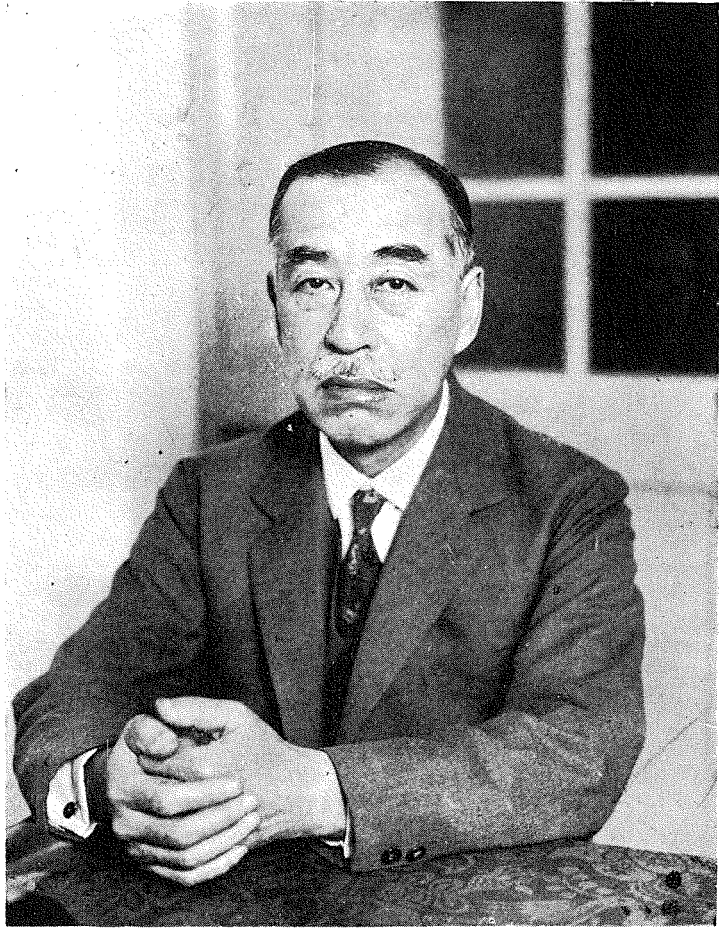


# 日本銀行の大増築成る



長野宇平治博士の面影

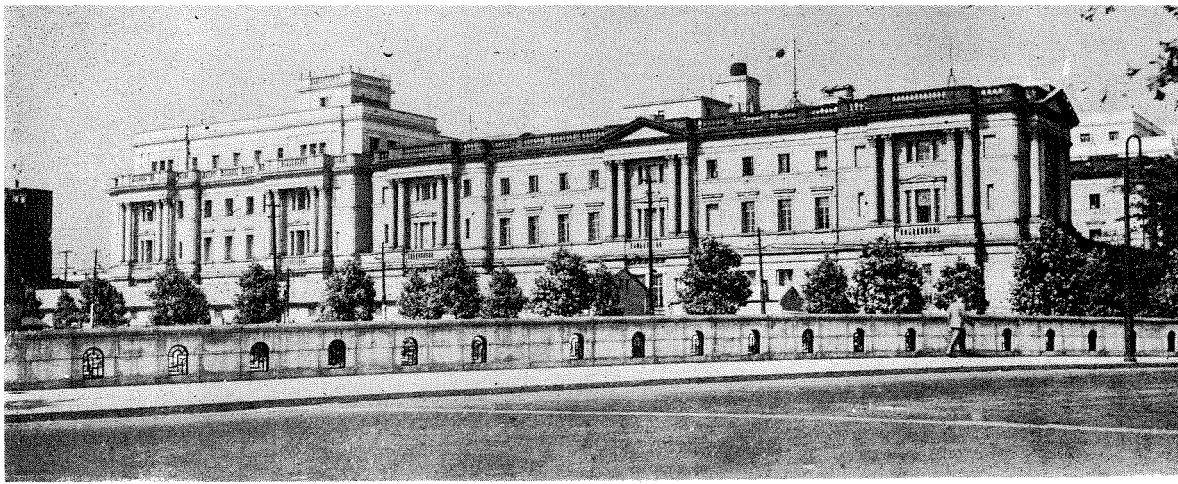
昭和4年以來工事中であつた日本銀行の大増築は10年を閲して此程漸く完成し、6月29日非常時の際とて内輪だけの修祓式が極く質素に行はれた。此際誠に遺憾なのは此工事を畢生の大事業とせられた日本銀行臨時建築部技師長長野宇平治博士が竣功を見ず舊臘七十一歳も以て長逝せられた事であるが、銀行當局は博士の功績に深き敬意を表し、竣功を靈前に報告し丁重に慰靈されたとの事である。長野博士亡き後は技師尾崎久助氏が主管して茲に世界に誇る日本銀行の建物が出来上り、6月30日専門家其他に觀覽を許された。外觀は實に壯重端麗、その構造は堅牢無比、設備

亦完璧、豪壯なる形式に飽くまで質實なる内容を盛つたもので、日本銀行として誠にふさわしき出来榮えである。

以下銀行の發表に依る工事説明を掲げる。

## 沿革

日本銀行は明治15年に創立され、當初永代橋際の舊開拓使の建物で營業を開始したが、其後間もなく現在の敷地、即ち舊幕時代の金座屋敷跡に地を相し、辰野金吾博士の設計に依つてイタリー復興式の營業所を新築した。これが現在の舊本館で、明治23年に起工し同29年に落成した。



(1) 日本銀行西面・右舊本館、左第1期工事による新館。

其後銀行業務の擴大に伴つて逐次附屬分館を増築して來たが、大正12年關東大震災に遭遇して附屬分館中に尠からざる損害を受け、又本館にも修理を要する個所が出來た。他方業務發展の情勢に鑑みる處あり遂に大増築の議を決し、昭和2年8月工學博士長野宇平治氏を技師長として設計を開始し、同4年11月起工、前後10年餘の日子を費して13年6月竣功を見るに至つた。

この増築工事では舊本館のみを存置して附屬分館は全部之を取毀つ事とし、舊本館の北側及東側に互り之に接續して、同様式の地上6階地下4階、建坪1,584坪延11,788坪を増築したのである。其結果總建坪2,522

坪、總延坪は15,407坪を算する事となつた。

工事は業務に支障を及ぼさぬやう之を3期に分けて順次施行した。而して畏くも第一期工事には

伏見宮博恭王殿下

第2期工事には

閑院宮載仁親王殿下、

第3期工事には

高松宮宣仁親王殿下

の臺臨を仰ぎ奉り、永世不朽の礎石を奠定す

る定礎式を舉行する光榮を擔つたのである。

増築工事に伴ひ連絡上舊本館にも一部間仕切の變更 其他の 改造を加へ、又其金庫を補

強し且新館に準じて煖房冷房其他機械及電氣の諸装置を改善、増築部分と連絡統一せしめた。増築工事の概要は次の通りである。

尾崎久助氏

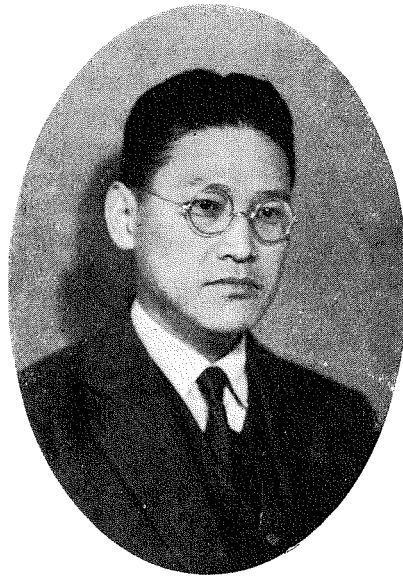
位置 東京市日本橋區本石町2丁目2  
敷地面積 4,481坪(舊本館の分を含む)  
増築建坪 1,583.69坪  
延坪 11,787.87坪  
階數 地上6階  
地下4階

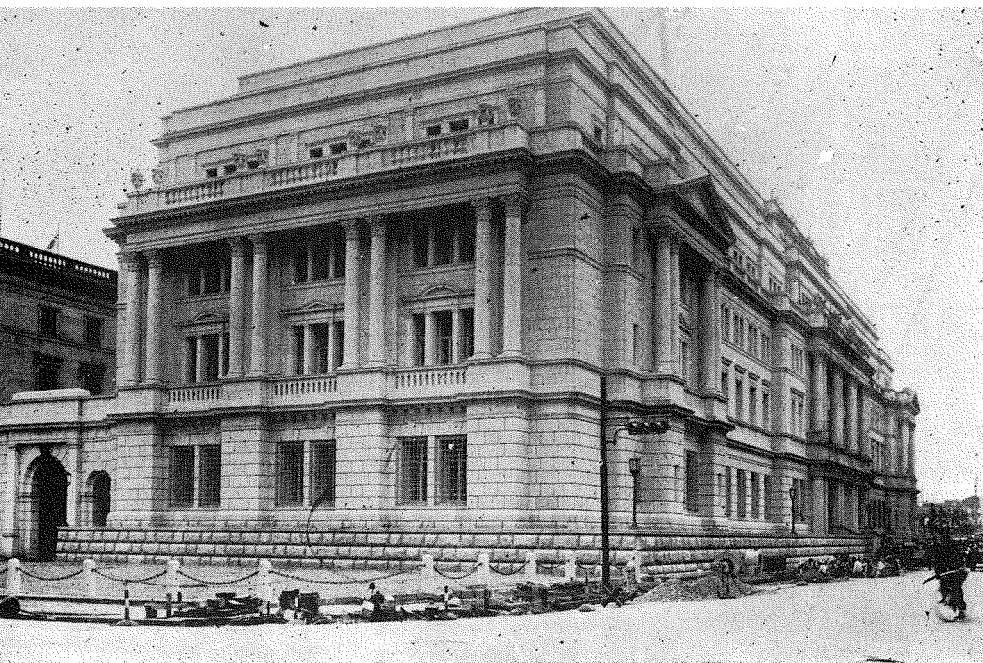
高さ 6階扶壁上端迄100.6尺

根伐底深 53.7尺

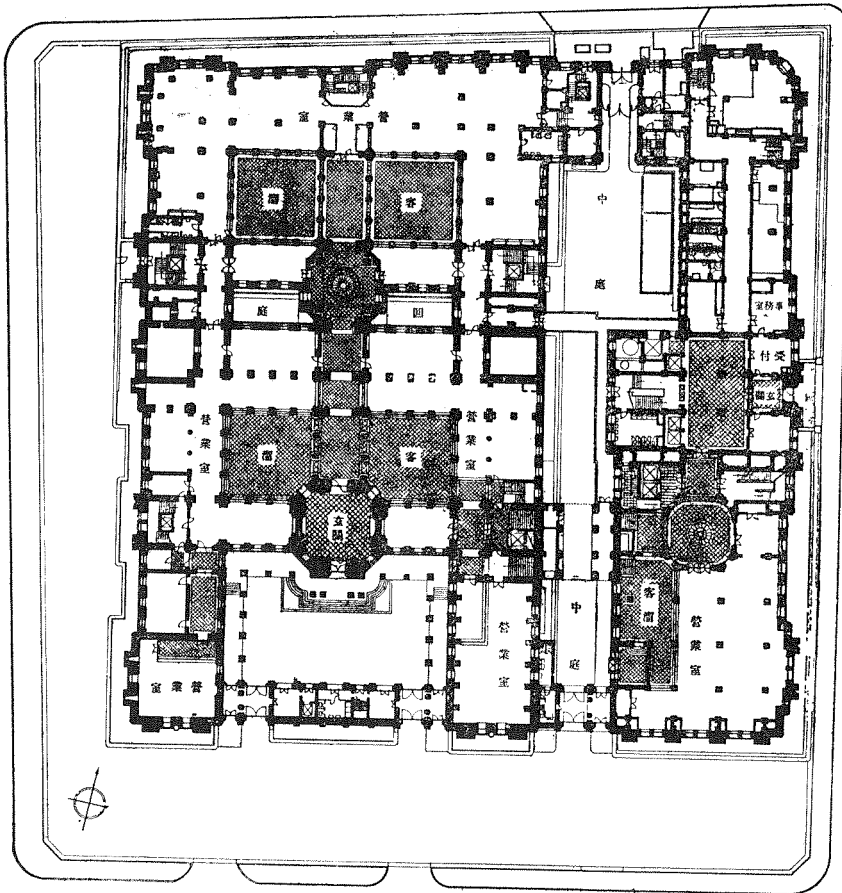
様式 イタリア復興式

用途 (1階)營業事務室、客溜、玄關廣間(中2階)更衣室(2階)重役用各室、會議室控室、食堂、事務室、(3階)事務室(4階)事務室、食堂、厨房(5階)集會室、食堂、厨房、機械室(6階)機械室(第1地階)金庫室、倉庫、更衣室、食堂(第2





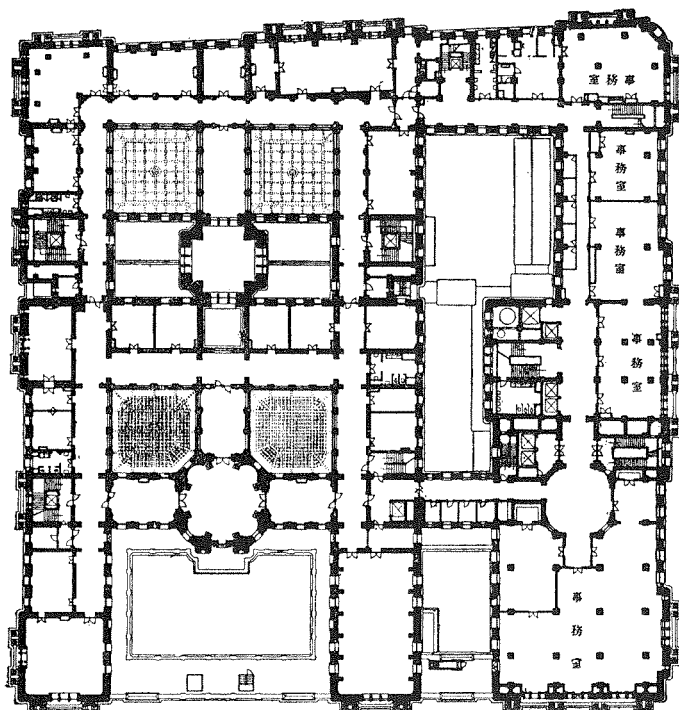
(2)新館東南面・  
第3期工事により  
竣工せるもの左端  
は舊本館。



10 0 10 20 30 40 50

(3)1階平面圖。

(4)新館東面・第2期工事により竣  
功せるもの前方に  
長野博士設計によ  
る横濱正金銀行の  
建物を見る。

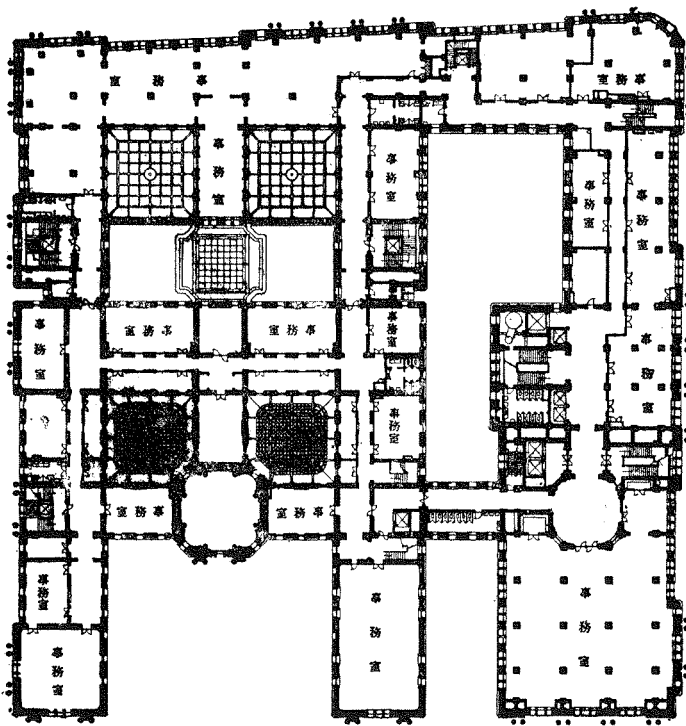


(5)2階平面圖。

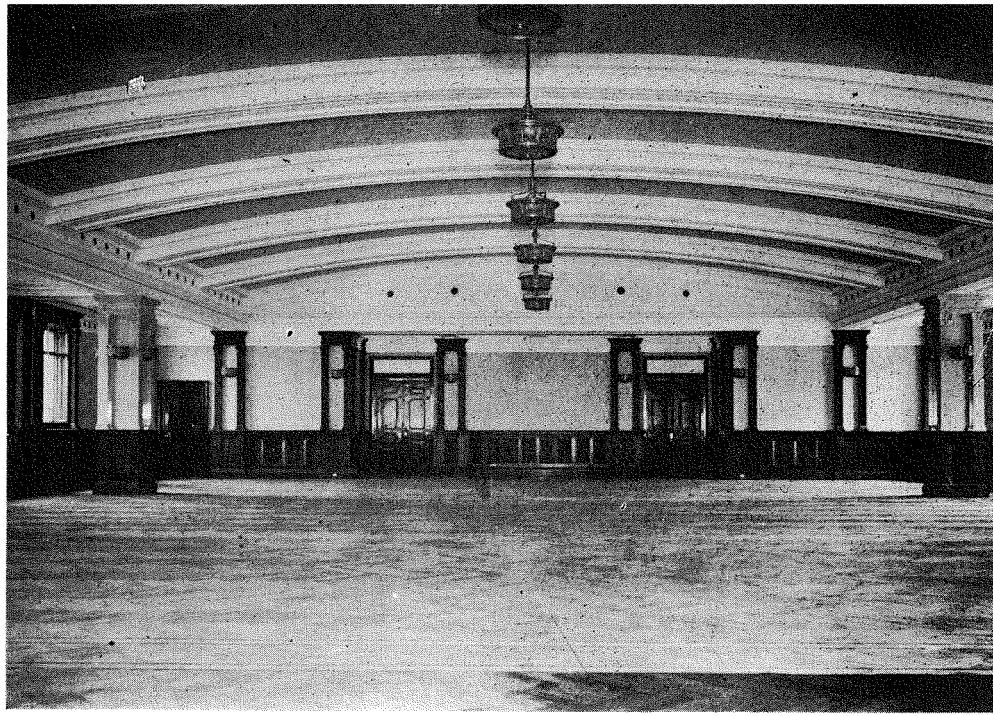




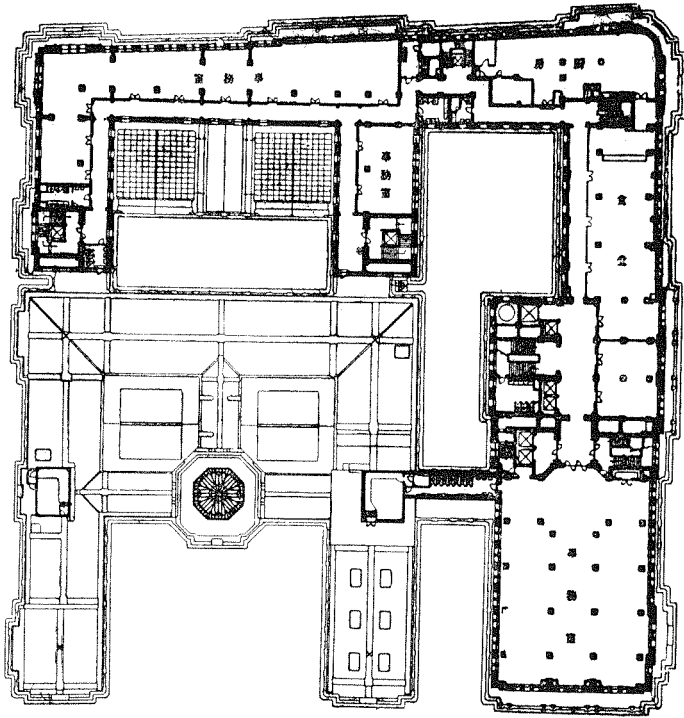
(6)營業室・第3  
期工事に依り竣功  
の部。



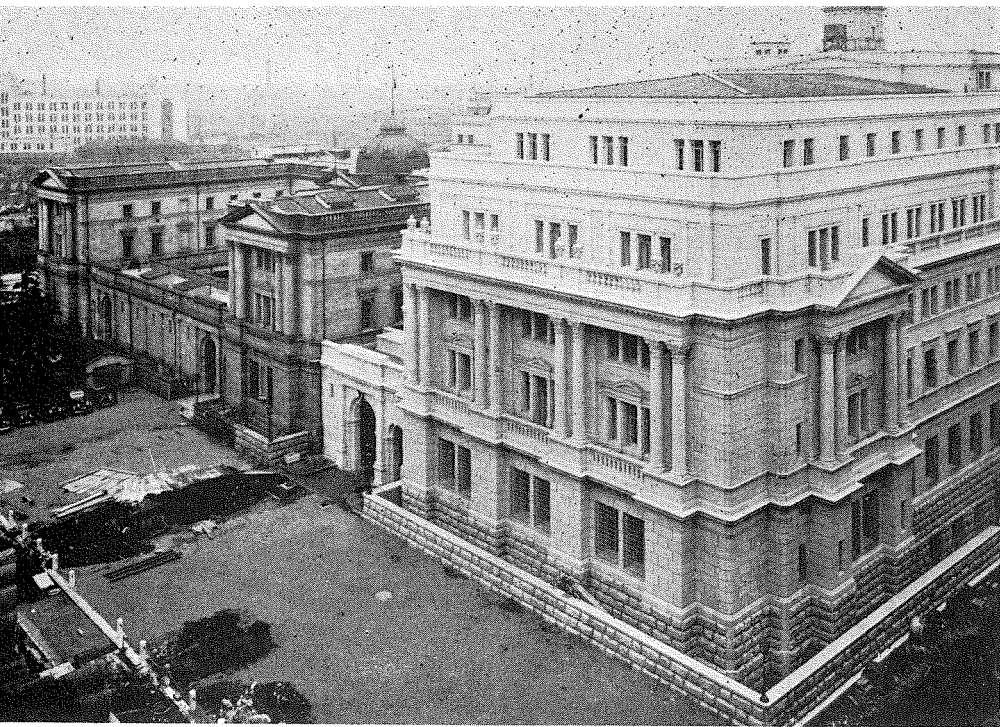
(7)3階平面圖。



(8)集會室・第3  
期工事により竣功  
せる部分の6階



(9)4階平面圖。



(10)三樓屋上より  
見たる日本銀行・  
左方3階座の部分  
は總本館。

地階)金庫室、倉庫、機械室、電氣室(第3地階)金庫室、機械室(第4地階)汽罐室、機關室。

**基礎** 第1期新館にありては地下41尺の砂層上に鉄筋コンクリート造總基礎を設けた。第2,3期新館にありては地下53.7尺の砂層上に鉄筋コンクリート造總基礎を設け、更に其下に地下63.7尺の砂利層に達する鉄筋コンクリート潜函基礎を築造した。

**主體構造** 鉄骨鉄筋コンクリート構造。  
**外部仕上** 外装は岡山縣産北木石、茨城縣産稻田石の兩花崗石を主とし、2階以上の平壁に神奈川縣産白丁場石を併用した。  
陸屋根は一般にタイル敷、勾配屋根は銅板瓦棒葺とし、客溜天井は採光用綱入硝子屋根とし之に防火捲込鐵扉を装置した。  
中庭は花崗石で鋪装した。

**内部仕上** 1階玄關客溜廣間廊下の床羽目類

は花崗石を使用し、窓口格子、屏障類はブロンズ製で、事務室及廊下の幅木類は花崗石、床はリノリウム敷である。

2階の重役用各室床はチーク寄木張、腰羽目及額縁はチーク材、煖爐前飾は國産大理石を使用、廊下は腰羽目に大理石を用ひ床の輪廓を大理石モザイクとし中央通りは組合せゴムタイルを敷く。

2階事務室部分及3,4,5各階廣間及廊下の腰羽目及床輪廓並に各事務室幅木には大理石を使用、床はリノリウム敷とした。4階及5階食堂の床はチークフローリングブロック張、腰羽目及屏障には檜材を用ひた。

厨房は床を人造石研出し、壁タイル張、天井は輕クリート張とした。

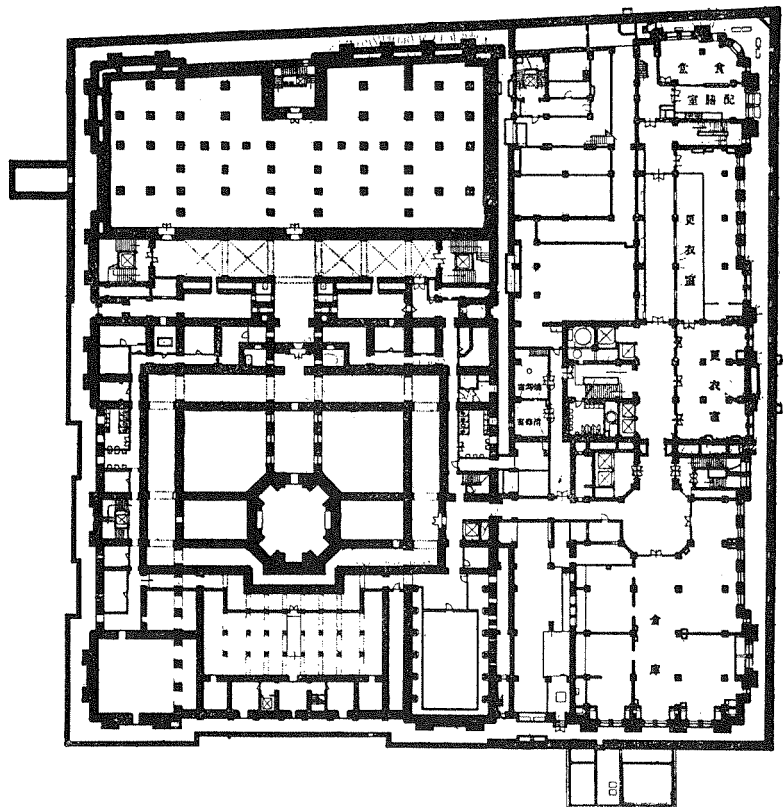
5階集會室床はチーク寄木張、腰羽目、片蓋柱及窓額縁はチーク材獨立柱及幅木は大理石を併用。

地階各金庫室前廣間床は組合せゴム  
 タイル敷、壁は特殊タイル張、  
 天井は特殊タイル張及漆喰塗。  
 地階各室及廣間、廊下等の床、腰  
 壁共タイル張、又各階洗面所便所  
 は床、腰壁共タイル張とした。各  
 階段は組合せゴムタイル及リフロ  
 ユーム敷で、蹴込及腰羽目には大  
 理石を用ひた。  
 各階壁及天井は漆喰塗である。  
 外部窓には鐵製硝子障子を嵌め、  
 電動手動併用捲込防火鐵扉を二重  
 に装置した。  
 内部各室出入口には鐵製唐戸及チ  
 ーク製唐戸を釣込む。  
 東口玄關出入口外扉はブロンズ製  
 南北出入口外扉は鐵製、鐵柵門は  
 鑄鐵製である。

建 具

附帶設備 煖房、汽罐、換氣、冷凍、給水、  
 給湯、冷却水、鑿井、排水、消火  
 真空掃除、書類輸送、書類消毒、  
 廢棄書類焼却、塵芥焼却、厨房、  
 昇降機、中央機械監理、警火、發  
 電、強弱電氣の諸設備がある。

工事施行 本工事は第1,第2,第3の各期工  
 事を通して實費清算式請負の方法  
 に依り又建築材料諸機械装置は事  
 情の許す限り國産品を採用した。  
 而して基礎工事は一式、又山留鋼  
 矢板購入、鐵骨工事、外装石工事  
 金物工事の一部、金庫鐵扉工事、  
 機械的裝置工事、電氣工事、衛生  
 工事、家具等は直營を以て何れも  
 總括請負人の管掌下に於て實施し  
 た。各期工事別の規模と總括請負  
 人は次の通りである。



(11)第1地階平面圖



**第1期** 舊本館の北に建坪 672.2 坪延4, 坪 253.9 増築したもので、地上階地下 3 階、地上階は事務室地下階は金庫に充てゝある。昭和4年12月25日起工、7年6ヶ月を費して昭和7年4月30日竣工した。

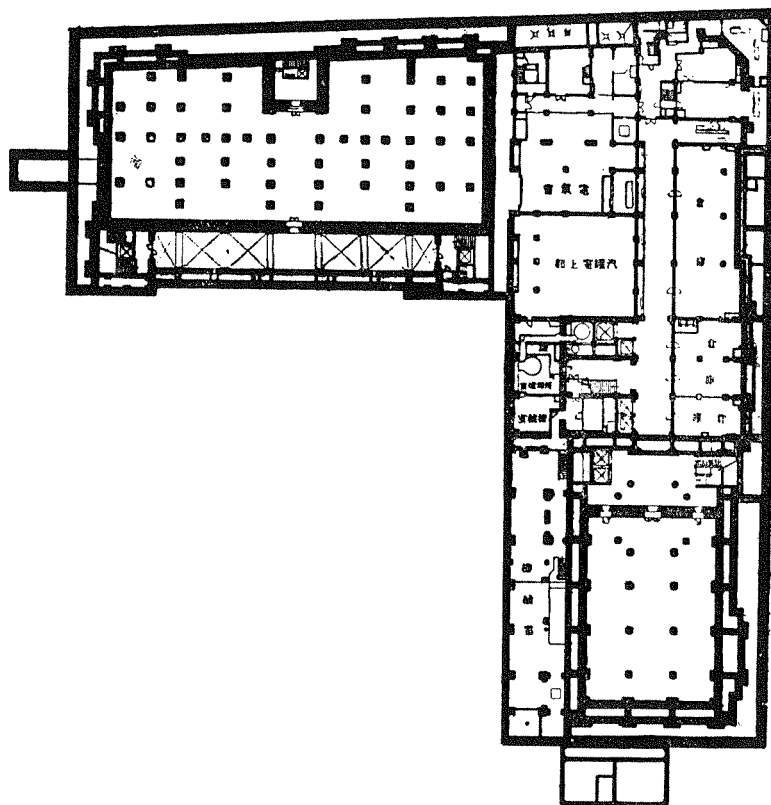
總括請負人は大林組である。

**第2期** 舊本館の東北に建坪 502.4 坪、延 4, 359.3 坪を増築したもので、地上 6 階地下 4 階、地上階は事務室及食堂、地下階は機械室及倉庫に當てゝある。昭和7年10月18日起工2年7ヶ月を費して昭和10年5

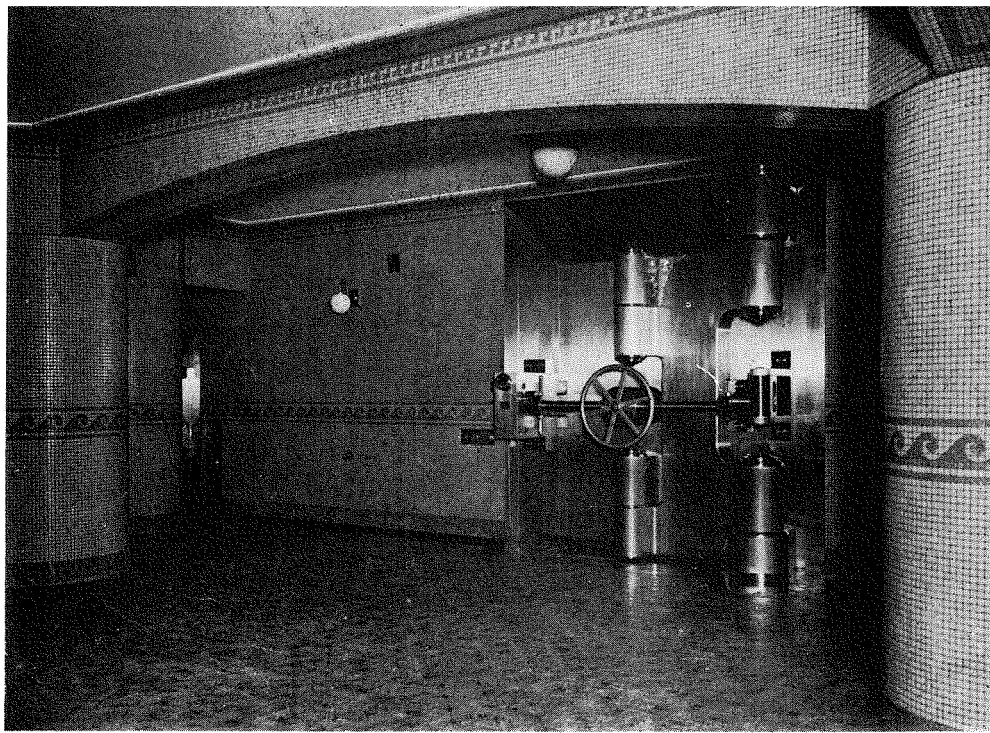
月10日竣工した。總括請負人は清水組であつた。

**第3期** 本増築計畫による最後の工事で舊本館の東に建坪409.3坪延3, 174.7 坪を増築した。地上 6 階地下 4 階で、地上階事務室、地下階は金庫室、機械室、倉庫である。昭和10年11月9日起工2年8ヶ月を以て本年6月19日竣工した。請負人は第2期と同じく清水組である。

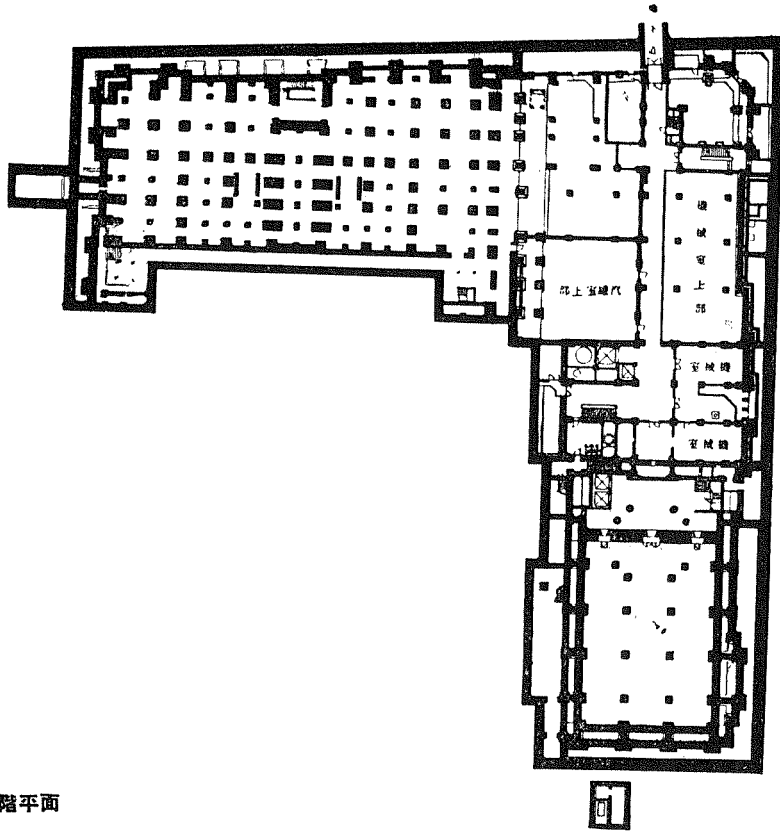
**設計監督** 日本銀行臨時建築部  
技師長 工博 長野宇平治



(12)第2地階平面圖。



(13)第3新館金庫  
室前の廣間。



(14)第3地階平面  
圖。